



街かど
gallery



八女市新庄
島本 脩

幼少より時折座敷の掛け軸の絵を觀て、清らかで奥深く質素な山水の絵に神秘さを感じながらいつとなく目にする中に何時か自分も描いてみたいと思う様になっていました。還暦を遙かに過ぎたある日、幸運にも中島美代子先生の教室に巡り会えました。最初の頃は絵になりませんでした。筆の動きと墨の濃淡で表現する描写法等の丁寧な指導を頂くうちに、無心な気持ちと雑念の忘却した静寂の空間に浸れることの面白さを感じる様になってきました。しかし、筆を重ねれば重ねる程、自分の性格が薄っぺらで単純な性格を表現している事が垣間見え恥ずかしさを感じます。遅まきながら墨絵を描く人生を楽しむの友としてゆっくり付合っ

健康よもやま話 ②



姫野病院：松浦 緑郎
(健康管理士一般指導員)

● 花粉症

一般に花粉症ときくと何やら病気でないような錯覚をいだいてしまいます。数ある病気のなかでも花粉などと艶めいた文字がついている病気は、そうあるものではありませんが、その多くはスギ・ヒノキ・ブタクサなど、花壇や花屋さんの花とはおおよそ無関係の、地味な花粉が原因で引き起こされます。

その症状はいうまでもなく、くしゃみ・鼻水・鼻づまり・眼のかゆみ・喉の腫れなど、目、鼻、喉のアレルギー症状が中心で、これが高じると、頭痛から睡眠不足、精神的イライラまで、多彩な症状が現れてきます。

日本人の花粉症の約7～8割はスギ花粉が原因だといわれていますが、このような現状のなかでよく耳にするのは「昔だって杉の木はたくさんあったけど、花粉症に悩む人なんか全然いなかった。」という言葉です。

この原因として、汚染された大気中の浮遊粒子が注目されています。というのも、この浮遊粒子はスギ花粉を吸着しやすく、吸着した形で吸入すると花粉症の発症が促進（アジュバンド効果）されてしまうからです。要するに、大気が汚染していればしているほど花粉症の症状はひどくなるのです。以前、車などの大気汚染が少なかった頃、スギの木が多かったのに花粉症の人がほとんどいなかったのは、こういう理由からです。

この他、食の欧米化や高気密な住環境、精神的ストレスなども大きく影響すると考えられています。言い換えるならば、花粉症は現代社会が引き起こした宿命であり、社会のありかたそのものに原因があるといえるのです。

花粉症になる人が増加の一途をたどる今、この高度に発達した近代文明は果たして人類に幸福をもたらしているのかどうか、私たちはもう一度よく考えてみる必要があるのかもしれない。

雛の里八女で一足早く春の訪れを告げるお雛様パレード。二月二十二日予定の園児のほほえましく可愛い、お雛様の行列が待ち遠しい。
八女ぼんぼり祭りは、伝統と町並を大切にし、外からのお客様をいざなう八女の早春の風物詩である。

八女川柳会 安達 昇



今月の山柳

こんにちは。
筑後警察署です。
⑦



たかはしたつり
筑後市大字和泉在住の高橋達法さん(88歳)が『平成26年秋の褒章』を受章し、平成26年1月14日、東京都のプリンスホテルで開催された受章式に出席されました。

高橋さんは、昭和55年ごろから筑後・羽犬塚校区内における防犯パトロール活動を率先して実施し、現在もその活動を継続されています。また、現在は「筑後市安全で安心できるまちづくり推進協議会」の会長や「筑後市防犯協会」の副会長等を務めるなど筑後市の防犯活動に尽力されています。

今回その功績が評価され、藍綬褒章(＝公衆の利益、公共の事業で事績著明な人に授与される褒賞)の受章となりました。高橋さんは受章式の中で、全国の受章者を代表して謝辞を述べる大役も務められました。

高橋さん、受章おめでとうございます。

生物利用科「新商品の試食および販売」

八女農業高等学校

みらい館で、毎週金曜日にパンの販売を行っています。新商品の開発を行い、昨年12月みらい館フェアで、販売班でオレンジピールとチョコチップ入りの全粒粉パンの試食および販売を行いました。このパンは、ハード系のパンで全粒粉を使用しており栄養価が高く、薄力粉と比較して3倍程度の食物繊維を含んでいるのが特徴です。たくさんのお客様に「おいしい」と言っていただきました。これからもみなさんに喜んでいただけるよう頑張っていきます。



2月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

3日(火)、6日(金)、10日(火)、13(金)、17日(火)、20(金)、24日(火)

販売時間は10時30分～12時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしております。

野鳥ウォッチング ②

ミヤマホオジロ (オス)

黄色い顔をした小鳥で、低い雑木や茶畑等の地面で「チツ・チツ」と鳴き常に左右を警戒しながら食物を探す冬鳥である。

アワ、ヒエ等の穀物を好物とし10月下旬から5月上旬頃まで見ることができる。

小学生のころは、頭部の毛が突起するので、「とっきんかぶり」と呼んでいた。

(矢部村)

栗原 浩暢

